

報告文献別一覽表

報告文献別一覧表(平成18年10月1日～平成19年3月31日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	HEV	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係の評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
2	HEV	J Med Virol 2006; 78: 1579-1583	アルゼンチンでブタの糞からHEV RNAが検出された。南米で初のブタHEV株同定である。これらの株は全てジェノタイプ3に属し、アルゼンチンで以前同定されたヒトHEV変異株に近かった。また抗HEV抗体の有無を5つの地方のブタで調べたところ、全ての地方で検出され、4-58%の陽性率であった。
3	HEV	Rev Med Virol 2006; 16: 5-36	421のHEV単離株のヌクレオチド配列をGenbankで検索し、分析した。HEVは系統発生的に4つの主要な遺伝子型に分類された。遺伝子型1は5つの亜型に分類され、アジアとアフリカの熱帯および亜熱帯諸国から、遺伝子型2は2つの亜型に分類され、メキシコ、ナイジェリア、チャドから単離された。遺伝子型3と4は、各々、10および7の亜型に分類され、前者はほぼ世界中で、後者はアジアでのみ単離された。また、遺伝子型3と4はヒトと動物からの配列は保存性が高い。
4	HEV	厚生労働科学研究費補助金 本邦に於けるE型肝炎の診断・予防・疫学に関する研究班 平成17年度分担研究報告書: 44-46	ELISA法によるIgAクラス抗HEV抗体測定系は顕性HEV感染例のみならず、不顕性HEV感染例でもIgMクラス抗HEV抗体測定系よりも優れていた。飼育ブタと野生イノシシでのHEV感染状況を全国で調査し、感染実態を明らかにするとともに、遺伝子配列に多様性を示すHEV株を分離した。また北海道のE型肝炎患者を対象とした分子疫学的調査研究を行った。
5	HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	世界各地のブタ同様、わが国のブタでもE型肝炎ウイルス(HEV)(遺伝子型3型と4型の土着株)の感染が蔓延状態にある。実験的にブタからチンパンジーへのHEV感染が立証され、ヒトHEVと塩基配列が100%一致するHEV株がブタから分離されている。E型患者が多い北海道では多数の患者が発症1～2ヶ月前にブタレバーやホルモンの摂食既往を有し、市販のブタレバーから1.9%(7/363)の頻度でHEVが検出されていることからブタの肉や内臓を生、あるいは加熱不十分な状態で摂食した場合に感染する危険性がある。
6	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
7	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 34-39	インフルエンザ大流行のリスク評価は不確定な技術である。インフルエンザAウイルスの大流行は10年から11年毎に生じるという理論およびウイルス再生の血清考古学的エビデンスが、1976年初めのNew Jersey州Fort Dixにおけるブタインフルエンザ発生リスク評価および管理のきっかけとなったが、この理論は支持できないことが明らかとなった。大流行するインフルエンザAウイルス株を出現させる正確な条件は未だ不明である。
8	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 787-794	米国でウイルス性肺炎で死んだブタおよび咳、呼吸困難およびし眠状態であったブタから単離されたブタインフルエンザウイルス(SIV)は新規のH3N1亜型であった。系統発生的分析の結果、これらのH3N1SIVはH3N2七面鳥単離体由来のヘムアグルチニン遺伝子、ヒトH1N1単離体由来のノイラミダーゼ遺伝子を持ち、残りの遺伝子はSIV由来である。また抗原としては七面鳥ウイルスに関連があった。
9	インフルエンザ	J Infect Dis 2006; 194: S77-81	インフルエンザパンデミック準備計画はヒトの罹患と経済および社会への負の効果を軽減するために重要である。CDCはいつ、どこでアウトブレイクが起ころうと迅速、効果的で成功する対策を保証するために活動している。戦略的計画に対する内容は季節的インフルエンザの経験と過去のインフルエンザパンデミックに関する知見に基づいている。公衆衛生的観点からはワクチン、抗ウイルス薬、医療品、封じ込め、コミュニケーションによる救命に焦点を当てた地域から地球レベルまでのネットワークの構築が必要である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	インフルエンザ	J Virol 2006; 80: 12229-12235	シベリアのIce湖の氷と水の中にインフルエンザAウイルスの遺伝子が保存される事が明らかとなった。この湖は渡り鳥がアジア、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカへ移動する途中に訪れる所であり、インフルエンザAウイルスは秋の渡りの初めに湖に預けられ、水中に保存され、春にトリが戻るときに氷が解けてウイルスが放出される。この時、前年のウイルスと南の地でトリが獲得した新しいウイルスとの間の一時的な遺伝子の流れが促進される。
11	インフルエンザ	J Virol 2006; 80: 5092-5096	米国で2004年に咳のあるブタから新規の再集合体H3N1ブタインフルエンザウイルス(SIV) (A/Swine/Minnesota/00395/2004)が同定され、系統学的分析の結果、ヘマグルチニンは現代型クラスターⅢ H3N2 SIVのそれに類似し、ノイラミニダーゼ配列は現代型H1N1起源であった。内在遺伝子はブタ、ヒトおよびトリのインフルエンザウイルス起源であり、現代型米国クラスターⅢ H3N2 SIVに類似していた。SIVの間に再集合体が生じている更なる証拠である。
12	インフルエンザ	ProMED-mail20070108.0077	米国アイオワ州東部でブタインフルエンザ陽性患者1例が確定された。州当局は警戒の必要はないとしている。患者は入院せずに回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はなかった。このウイルスはヒトに感染しにくく、ヒトはかなり抵抗力を持っている。
13	インフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	インフルエンザについて、パンデミックの鍵を握ると考えられる鳥インフルエンザウイルスを中心に、インフルエンザウイルスの構造特性、宿主特異性、新型ウイルスの出現メカニズム、病原性、新型インフルエンザ対策の現状と展望について概説した。
14	鳥インフルエンザ	CURRENT THERAPY 2006; 24: 1023-1026	渡りガモはすべてのヘマグルチニンとノイラミニダーゼ亜型のウイルスの自然宿主である。カモは夏に北方の営巣湖沼でウイルスに水系経口感染し、結腸の上皮細胞で増殖したウイルスを糞便とともに排泄する。ヒトのウイルスとカモのウイルスがブタに同時感染すると両ウイルスの遺伝子再集合体が生じる。その中でHA遺伝子を持ちヒトに伝播したものが新型ウイルスである。
15	鳥インフルエンザ	内科 2006; 98: 865-871	すべてのインフルエンザウイルスの起源は鳥、とくに水鳥が保有する鳥インフルエンザにある。鳥インフルエンザウイルスが変異を起こして、ヒトが優勢にもつインフルエンザウイルスに対するレセプターを認識する鳥インフルエンザウイルスが出現した場合、ヒトにパンデミックを起こす新型インフルエンザの原因ウイルスになる可能性がある。
16	鳥インフルエンザ	GDC /AVIAN INFLUENZA (BIRD FLU) 2006年6月30日	トリインフルエンザ(Bird Flu)およびトリインフルエンザA(H5N1)ウイルスに関するQ&A。今までの報告では、トリインフルエンザのヒトへの感染は、感染したトリとの接触によるものがほとんどであり、鶏肉や卵などの食品からの感染は報告されていない。たとえ生肉や卵がウイルスで汚染されていたとしても、適切に調理することでウイルスを殺すことができる。
17	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061225.3605	2006年12月24日、韓国South Chungchong地方Asanで発生したトリインフルエンザのアウトブレイクで、ブタ4000頭およびニワトリ2000羽以上が処分された。2006年12月23日、エジプトGharbiaのヒト検体がトリインフルエンザウイルス陽性であった。同国で18例目のヒト陽性例である。
18	鳥インフルエンザ	WHO 2006年5月8日	1996年に中国の家禽から高病原性H5N1ウイルスが単離されてから、2006年5月5日までの、世界各国における動物とヒトでのH5N1トリインフルエンザ発生状況をまとめた年表である。
19	鳥インフルエンザ	WHO/GSR 2006年8月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update13):2006年8月8日に中国衛生省は、2003年11月に遼りH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例をレトロスペクティブに確認した。症例はBeijingを拠点とする軍人の24才男性で、2003年11月25日に発症し、重症呼吸器疾患で12月3日に死亡した。本症例の確認により、中国本土における最初のH5N1ヒト感染事例が明らかとなり、現在のアウトブレイクにおいて最初に確認された症例となる。

ID	感染症(PT)	出典	概要
20	鳥インフルエンザ	英国保健省 2007年3月20日	2007年3月20日現在、感染したトリとの接触の結果、ヒト281名がトリインフルエンザに感染し、その内169名が死亡した。H5N1がヒトからヒトへ簡単に伝染する能力を獲得したとの明確な根拠はないが、ウイルスがこの能力を獲得するか、またはヒトのインフルエンザウイルスと混ざって新しいウイルスを作ることが懸念されている。2007年2月3日にSuffolkで家禽にH5N1アウトブレイクが発生したが、現在のリスクレベルは極めて低い。また、家禽に密接に接触するヒトのために無料の季節的インフルエンザワクチン接種が提供される予定である。
21	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 2007年1月11日	2007年1月10日付けWHO更新情報によると、中国保健省はH5N1鳥インフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。安徽省在住の37歳男性で、2006年12月10日に発症し、17日に入院した。患者は1月6日に退院し、回復しつつある。感染源として病鳥への暴露の可能性に関する調査が行われている。密接接触者は医学的監視下に置かれていたが、全員健康であり、12月29日に解除された。
22	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月14日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update14): 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で21例目のヒト感染症例を確認した。症例はXinjiang Uyghur自治区の62才男性で、2006年6月19日に発症し、7月12日に死亡した。症例の検体に関する初期検査は陰性であった。7月および8月に検査を繰り返し行ったところ、最終的に陽性結果であったことが、2006年8月14日に衛生省により確認された。症例の疫学的調査により死亡または病気のトリへの暴露歴を明らかにすることはできず、発症前月に旅行歴はなかった。中国において現在までに確認された21例のうち、14例が死亡している。
23	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況: 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で22例目のヒト感染症例を確認した。症例はAnhui省の37歳男性で、2006年12月10日に発症し、12月17日に入院し、2007年1月6日に退院し、回復しつつある。この男性は農業従事者で裏庭で多くのトリを飼っていたらしいが、病気のトリに接触したかは不明である。
24	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2006; 55(44): 1204-1205	2006年1月1日から11月7日の間に米国で計41州およびコロンビア地方からウエストナイルウイルスのヒト症例3830例がCDCへ報告された。神経侵襲性疾患1339例、ウエストナイル熱2324例、他の臨床症状167例、死亡例119例である。
25	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2006; 55(28): 777-778	米国で2006年1月1日から2006年7月18日までに合計10州で15例のヒトでのウエストナイルウイルス病がCDCに報告された。死亡例はなかった。同ウイルス血症のドナーは11例と推定される。
26	BSE	USDA/News Release 2006年3月16日	2006年3月16日、アラバマ州および米国農務省は、BSE陽性牛の死骸の回収を終了した。掘り起こした死骸の一部はDNA検査のための検体としてNVSL(National Veterinary Services Laboratory)に送られた。このウシは歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。
27	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
28	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存している。
29	サルモネラ	Southeast Asian J Trop Med Public Health 2005; 36: 1510-1515	2003年にタイ北西部の小売市場で豚肉および鶏肉、各40検体を集め、Salmonella菌を単離、同定した。また同じ町の病院に入院中の下痢の患者から得た54のSalmonella単離体のセロタイプを調べた。豚肉の65%、鶏肉の75%が汚染されていた。豚肉ではS. Rissen (61.5%)が、鶏肉ではS. Anatum (33.3%)が最も優勢であった。ノルフロキサシンとシプロフロキサシンにはどの単離体も耐性を示さなかった。
30	トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2006; 55(29): 798-800	ロサンジェルスで心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。

ID	感染症(PT)	出典	概要
31	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1978-1979	Abu Bakarらは、1998年から1999年のマレーシアにおけるニパウイルスアウトブレイク中の株の変異について、1998年にPerakで第一の、1999年に南マレーシアで第二の、コウモリからブタへの感染が発生したとしている。しかし、1999年初頭にPerakから南部の農場へ多数のブタが移動したことが調査の結果明らかとなり、北部のブタ集団内での連続的な感染が北部と南部の分離株の違いを生じさせたと考えられると、Pulliamらは提案している。
32	ハンタウイルス	Ann Emerg Med 2006; 48: 593-594	1993年にハンタウイルス肺症候群が認知されて以来、2006年5月10日までに、CDCは30州から報告された438症例を確定し、そのうち154例が死亡した。2006年1月から3月の間にArizona州など5つの州から9例が報告されており、2006年はヒトのハンタウイルス感染の危険性が増加していることを示唆する。CDCはげっ歯類から疾病の感染を防ぐためのキャンペーンを行っている。
33	ウイルス感染	ProMED20060420-0060	フィリピンBulacan州で子豚が致死性のウイルスによる下痢症に罹患しており、感染拡大が懸念されている。マニラでは3ヶ月ほどで豚肉が不足するおそれがある。
34	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌はtuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、efおよびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
35	レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2 (SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。
36	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい。
37	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
38	感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	中国のブタにおける「ブタ高熱病」、報告日2006年9月12日。2006年6月末以降、中国の6つの省で、高熱、皮膚の発赤、呼吸促進を特徴とする疾患で死亡した。調査の結果、古典的ブタ熱、ブタ生殖器および呼吸器症候群、ならびにブタサーコウイルスの混合感染に関連する事が明らかとなった。
39	感染	ProMED20060412-0100	中国東部の河川で、死亡したブタ数十頭が発見されたが、死因は不明である。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。
40	感染	ProMED-mail20060903.2508	中国南部で最近発生したブタの病気に対して、農業省は2006年8月31日に通知を出し、生産者や屠殺場での検疫の強化、病気のブタを屠殺しない、食べない、売らない、輸送しない、ならびに安全に処分することを命令した。2006年6月末以降、高熱、皮膚の発赤、呼吸促進を特徴とするブタの病気が発生している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
41	感染	ProMED-mail20061129.3387	2006年の秋に中国に旅行した英国の獣医師によると、「ブタ熱」は中国の養豚業界に拡大している。ブタ生殖器および呼吸器症候群、ブタサーコウイルス2型および他の疾患を含めて、今年の「ブタ熱」アウトブレイクは中国の養豚場を席巻し、100万頭以上の被害が出た。
42	感染	ProMED-mail20070114.0185	中国Xian農業局は2007年1月4日に「ブタ高熱病」は制圧されたと発表した。この病気は人畜共通ではない。ブタ5866頭に発生し(発生率43.7%)、2390頭が死亡した(致死率17.8%)。
43	感染	ProMED20060412-0100	中国東部の河川で、死亡したブタ数十頭が発見されたが、死因は不明であると、香港の新聞が4月11日報じた。豚の死骸は過去3日間隣接する江蘇省と浙江省とで発見されたため、何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。
44	感染	ProMED-mail20061223.3592	2006年12月22日の北京当局の発表によれば、最近、北京Tongzhou地方のGuoxian町Guoxian村で発生しているブタの病気はブタマイコプラズマ肺炎とブタコレラの合併症であった。2006年12月初めに80頭のブタが発病したが、病気のブタはテンのえさとして業者に売られた。この後すぐに、当局は病気や死んだブタを追跡し、養豚場を消毒し、感染の拡大を防いだ。
45	口蹄疫	OIE Disease Information 19(32) 2006年8月10日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 10(2006年7月29日から8月7日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-Gansu省Huining郡。ウシ疑い例286例、症例230例、処分286例。ヒツジ/ヤギ疑い例139例、処分139例。ブタ疑い例182例、処分182例。
46	口蹄疫	ProMED20060101-0010	12月6日以降、中国山東省都済南市Changqing地区で発生した家畜の異常はアジア1型口蹄疫であった。山東省当局は処分、消毒、予防接種を指示した。鳥インフルエンザや口蹄疫などの対策として、全ての村に感染症モニタリングの職員を配置するべきである。
47	口蹄疫	ProMED-mail20061117.3292	アジア1型口蹄疫のアウトブレイクが中国Gansu省Chongqing CityのWanzhou地区およびYongdeng Countyで報告された。Wanzhou地区でのアウトブレイクは2006年11月10日に始まり、ウシおよびブタに影響を与えた。Yongdeng Countyでは2006年11月10日に始まり、ウシに影響を及ぼした。
48	口蹄疫	ProMED-mail20070117.0224	中国Yuen Longの養豚場で口蹄疫が発生したが、今までのところ異常な死亡例は観察されていない。当局調査官は2007年1月10日に農場を検査し、病気のブタから採取した組織検体を検査したところ、口蹄疫ウイルス陽性であった。農場全体の消毒およびブタおよびヒトの移動の管理を命令した。
49	細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 758-767	デンマークの2つの郡でヒト感染症例から単離されたCampylobacterを小売店の食品検体およびニワトリ、ブタ、ウシの糞検体からの単離体と比較した。1285のCampylobacter単離体を調べたところ、C. jejuniが最も優勢であった。合計で356の異なるサブタイプが見られた。国内感染症単離体の61%が食品中にも見られたのに対し、旅行関連感染症の31%しか食品中には見られなかった。
50	細菌感染	Lett Appl Microbiol 2006; 43: 424-429	ブタから分離されたBisgaard taxon42が、今までウマからのみ分離されている[Pasteurella] caballiであるかを調べた。3大陸の5つの国のウマ[P.] caballiと比較したところ、表現型の特徴は差がなく、リボタイピングとパターン分析、16S rRNA配列、DNA-DNAハイブリダイゼーションの結果、taxon 42は[P.] caballiに属することが確定した。[P.] caballiはウマだけでなく、ブタも感染源になる可能性がある。
51	細菌感染	Vet Microbiol 2006; 114: 123-133	オランダの養豚場で雌ブタからその子ブタへのArcobacter種の伝播を調べた。直腸スワブを検査したところ、雌ブタの約42%がArcobacterのキャリアであり、A. skirrowiiが最も優勢であったが、Arcobacter種は同一個体でも時期により変化した。雌ブタの羊水中、および生まれた直後の子ブタの直腸検体から親と高い類似性のある菌が検出されたことから、子宮内伝播経路の存在が示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
52	旋毛虫症	Acta Tropica 2006; 97: 247-251	2000-2003年に中国の6つの省または自治区においてヒトでの旋毛虫感染の血清疫学的調査を行ったところ、血清学的有病率は3.57%であった。同期間に8つの省または自治区で17件のアウトブレイクがあり、828症例と11例の死亡が記録された。死亡例の全てが肉の生食を習慣とする南西部で発生した。豚肉が主な感染源であるが、イヌ、イノシシ、クマの肉も感染源となっている。住民に生肉を食べないように指導することが旋毛虫減少に有効である。
53	旋毛虫症	Helminthologia 2006; 43: 21-26	1999年から2004年の中国におけるブタの旋毛虫症について疫学的調査を行った。血清有病率および屠殺されたブタの旋毛虫感染率は1990年代に比べ、明らかに減少した。これは養豚場や養豚技術の発達などによると考えられる。2000年から2004年に8つの省または自治区でヒトでの旋毛虫症の発生は17件あり、828症例で、11例が死亡した。
54	旋毛虫症	ProMED-mail20060719.1983	米国メリーランド州農業局はCarroll郡のブタ2頭が旋毛虫症陽性であったことを受け、旋毛虫症の拡大を懸念している。これらのブタの農場主とその息子は無許可で屠殺場を営業していた罪などで逮捕された。その農場では死んだ動物が積み重ねられ、生ゴミを餌としており、栄養失調のブタが旋毛虫症陽性であった。この農場から逃げたと思われるブタ3頭も旋毛虫症陽性であることが確認された。
55	狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都保健所は、2006年8月末にフィリピンで野良犬に手を噛まれ、2006年11月1日に帰国した後、狂犬病を発症した60歳代の男性が死亡したと発表した。
56	結核	Epidemiol Infect 2006; 134: 1068-1073	ニュージーランドにおけるMycobacterium bovisの動物からヒトへの伝播について調べた。1995年から2002年の間のヒト結核症例について疫学的、臨床検査学的調査を行ったところ、結核確定例1997例中54例(2.7%)がM. bovisで、10万人中0.2%の割合であった。ヒトからのM. bovis単離体と動物からの単離体を制限酵素法で比較したところ、ヒト単離体の61%が動物の単離体と同一のパターンを示した。
57	炭疽	ProMED-mail20060806.2195	CFIAの炭疽に関するupdate(2006年8月3日)によると、カナダSaskatchewanで炭疽は99施設で確認され、死亡例はウシ323頭、ウマ6頭など計481頭である。Manitobaでは16施設で確認され、ウシなど109頭が死亡している。
58	炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、バイソン、シカ、ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
59	炭疽	カナダ Saskatchewan州農業食品局 2006年8月7日	カナダSaskatchewan州で家畜の炭疽感染が拡大している。CFIAによると2006年7月25日現在、59施設でウシ273頭が死亡した。洪水、過度の湿気、干ばつで土中の芽胞が表面に露出したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。

